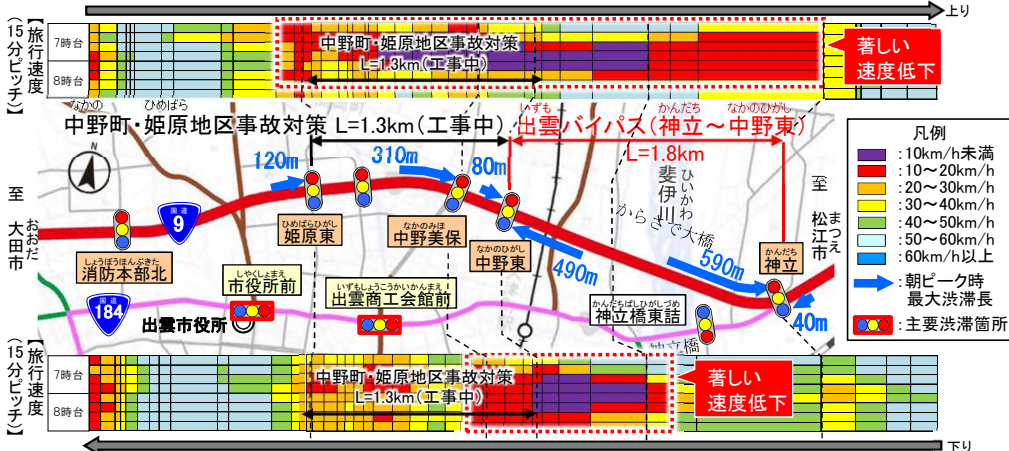


一般国道9号 出雲市(神立～中野東)における計画段階評価

1. 当該地域の課題

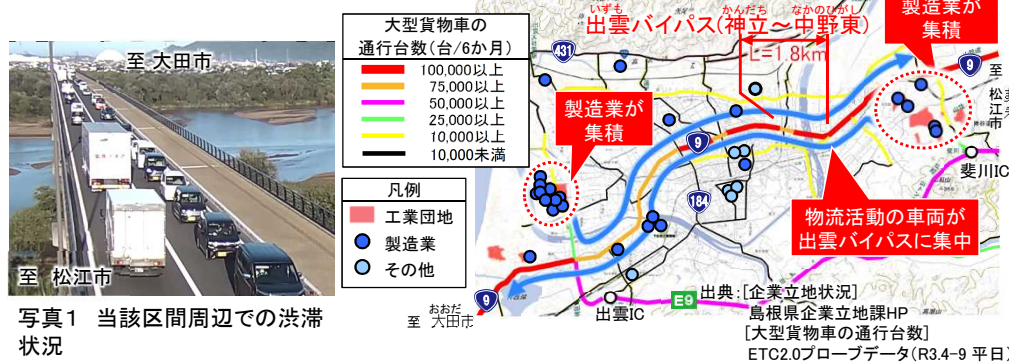
①ピーク時の著しい渋滞

- 出雲バイパスは出雲市東西を結び、出雲市の交通を担う主要幹線道路。
- 当該区間周辺は、朝ピークの旅行速度が10km/h未満と著しく速度が低下し、通勤・業務交通等の利便性が低下。(図1)



②円滑な物流の阻害

- 出雲バイパス周辺には工業団地が多く、製造業事業所が多数立地。東西への物流活動に出雲バイパスを多数利用。(図2)
- 当該区間は、混雑による非効率な物流が課題。(写真1)



③救急搬送の阻害

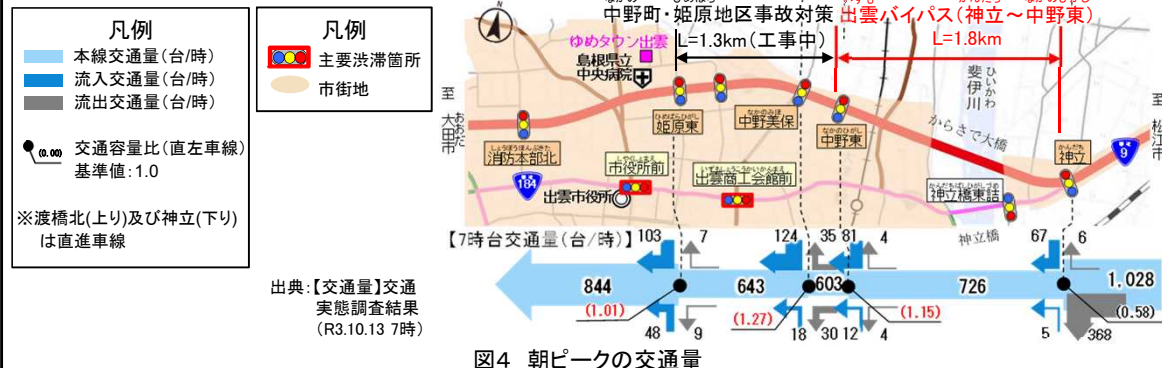
- 出雲バイパス沿線に立地する島根県立中央病院は、県内唯一の高度救命救急センターであり、年間約4,000件もの救急搬送を受け入れ。(図3)
- 搬送ルートである出雲バイパスの交通混雑の影響を受ける等、搬送時の速達性確保が課題。



2. 原因分析

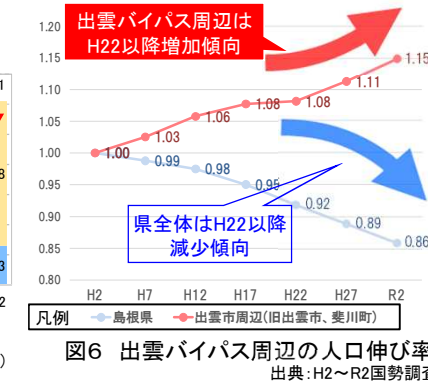
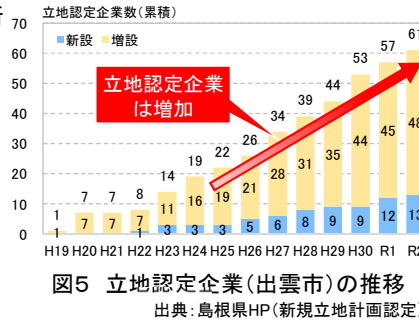
①幹線道路である国道9号出雲バイパスへの交通集中

- 当該区間は斐伊川渡河部を通過しており、市街地に流入する数少ない経路。
- このため周辺道路から当該区間に交通が集中。(図4)



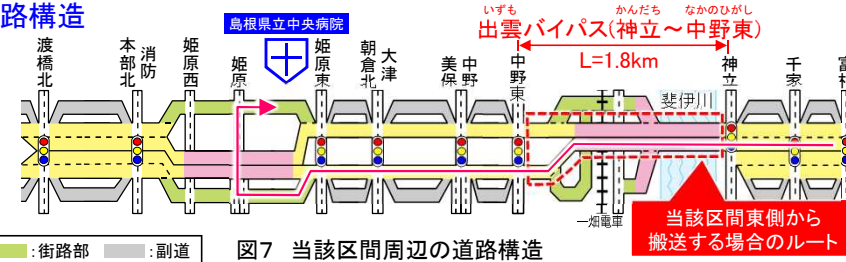
②沿線の人口増加や地域産業の進展による交通量の増加

- 出雲市内で設備の増設や新設をする企業が増加。(図5) また、島根県全体としての人口は減少傾向にある中、出雲バイパス周辺の旧出雲市、斐川町の人口はH22以降増加傾向。(図6)
- 出雲バイパス沿線は社会・地域産業活動が進展してきている。



③混雑を回避できない道路構造

- 当該区間は副道や交差道路がなく、混雑時でも別ルートへの回避ができないため、救急車両の円滑な通行を阻害。(図7)



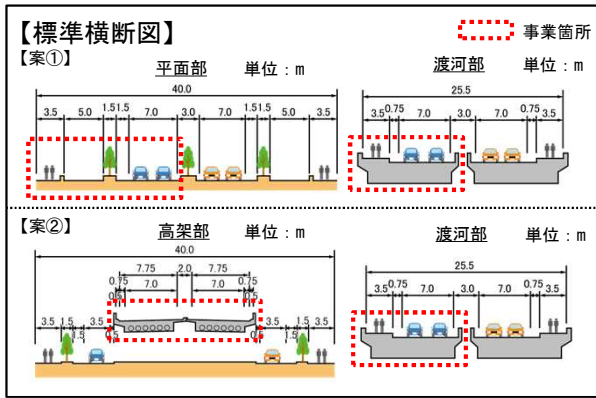
3. 政策目標

- ①交通の円滑化 ②地域産業の支援 ③救急医療活動の円滑化

一般国道9号 出雲市(神立～中野東)における計画段階評価

4. 対策案の検討

評価項目		【案①】 現道拡幅案(4車線)	【案②】 現道拡幅+立体交差案
効果・改善点 道路整備による	混雑緩和	○ ・区間全体で交通容量が確保され、混雑が緩和	○ ・区間全体で交通容量が確保され、混雑が緩和
	物流の円滑化	○ ・区間全体の混雑緩和により、輸送時間が短縮され、円滑な物流が実現する	○ ・区間全体の混雑緩和により、輸送時間が短縮され、円滑な物流が実現する
	円滑な救急医療活動の確保	○ ・片側2車線が確保されるため、搬送時の追い越しが可能になり、円滑な救急搬送が実現する	○ ・片側2車線が確保されるため、搬送時の追い越しが可能になり、円滑な救急搬送が実現する
影響 道路整備の影響	工場の影響	△ ・現道を通行させながらの施工が可能である	× ・立体交差部の施工時に全面通行止めが発生
	建設費	○ ・約140億円	△ ・約180億円
総合評価		○	△



対応方針(案)：案①による対策が妥当

【計画概要】

- ・路線名：一般国道9号
- ・区間：島根県出雲市斐川町併川～島根県出雲市中野町
- ・概略延長：約1.8km
- ・車線数：4車線
- ・設計速度：60km/h

〈出雲バイパス〉

■ 計画段階評価の状況

- ・S55年 5月：都市計画決定
- ・H13年 4月：都市計画変更

■ 地域の要望等

- ・R 2年 7月：島根県知事が国土交通省に事業化要望
- ・R 3年 7月：島根県知事が国土交通省に事業化要望
- ・R 3年10月：島根県知事が国土交通省に事業化要望
- ・R 3年10月：出雲市長が国土交通省に事業化要望
- ・R 4年 1月：島根県知事・出雲市長が国土交通省に事業化要望